

# 金子兜太先生のふるさと投句 第二回特選・入選作品

選者 秩父郡市俳句連盟会長 金子 千侍先生

## 特選

### 一村を神代に戻す神楽笛

さいたま市 増田 信雄

#### 講評

お神楽は古事記(七二二年)に記されている神々の建国の歴史を表  
現した、お芝居と云ってもよいでしょう。「天の岩戸」「八岐大蛇」な  
どなど。さあ村人によつて演じられるお神楽を、村中の人が観に集ま  
ります。恰も、一村が神代の時代にタイムスリップしてしまっている  
のです。「神代に戻す」は、なんとも痛快極まりない表現です。

### 天空の里に銀河の無人駅

伊勢崎市 川端 一美

#### 講評

「日の夕べ天空を去る一狐かな」(兜太)この句碑のある皆野町立  
沢地区を、地元の人々は「天空の里」と呼んでいます。さて、作者は  
この地で、頭上近くに溢れ落ちそうな凄い銀河を観たのでしょうか。宮  
沢賢治の「銀河鉄道の夜」を想起して、きつとここに無人駅があるん  
だ。作者のロマンは限りなく広がるのでした。

### 湯を沸かせ詩をわかせて山眠る

群馬県邑楽町 金子 睦子

#### 講評

温泉の沸く観光の秩父。大勢の俳人が集い豊かな文化の漂う秩父。  
その秩父も今は山懐にいだかれて、閑かな冬の眠りの中にあります。  
作者は「沸かせる」「わかせる」の同義語の重ねた表現により秩父の  
観光、俳句(詩)の盛んなことを詩的に称えて下さいました。

## 入選

### 大人の部

龍の背の如き山脈冬晴るる

藤沢市 山田 貴世

小鳥来る人骨もある農具館

熊谷市 渡邊 氣帝

媪一人秩父の夕日に芋を掘る

大田区 古澤 古友

大銀杏散りて裸の骨太に

長瀨町 大前 英俊

天空の里にバス停鴟の声

滑川町 木村 香雪

秋散歩ひと休みする足湯かな

皆野町 中村つね子

宝登山を遠見に兜太の国の秋

藤沢市 朝広 純子

冬紅葉燃えに燃えたり親子句碑

小鹿野町 原島 勝子

秩父嶺猿も寄りそう大晦日

板橋区 澤田 文恵

青空のかけら集めていぬふぐり

小川町 吉田 和男

### 小人の部

あきのよるきれいなこえがきこえるよ

鶴ヶ島市 前芝 真咲(6歳)

赤い秋もみじのはっぱおちてきた

鶴ヶ島市 牧田 岳(7歳)

赤とんぼのぞかれてるよ昼うどん

皆野町 関口 実怜(9歳)

とりの声花も葉っぱもきいている

鶴ヶ島市 前芝 日和(9歳)

秋風で上から下へちるもみじ

鶴ヶ島市 牧田 空(9歳)